

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	八ヶ岳少年自然の家	評価対象年度	令和4年度
事業者名	・事業者名 一般社団法人富士見パノラマリゾート ・代表者名 理事長 名取 重治 ・所在地 長野県富士見町富士見6666番地703	評価者	青少年支援室長
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数 86,268人 (令和3年度:77,142人)	②年間延べ利用団体数576団体 (令和3年度:443団体)
収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 269,191,000 利用料金収入 5,120,150 環境収入 2,170,054 その他収入(食堂他) 92,053,811 合 計 368,535,015 2 支出 人件費・賃金 106,605,403 光熱水費 47,337,908 委託費 30,071,475 備品購入費 1,510,738 消耗品費 5,580,638 商品仕入れ費 75,670,261 修繕費 12,341,007 その他経費 81,643,070 合 計 360,760,500 3 差引 7,774,515	
サービス向上の取組	利用者にアンケートを行い、意見を取り入れた活動を行っている。また、自然教室のプログラムの一環として、地元農家と連携して田植えや稲刈りの体験を実施するなど、サービス向上に取り組んでいる。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	3	3
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	(評価の理由) ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、検温や手指消毒、パーティションの設置等の対策は継続して適切に講じ、計画通り、市内全ての小中学校の自然教室等の円滑な受け入れを行った。 ・宿泊者や地域住民を対象とした星空観察会や自然観察会を継続して実施したのに加え、計画していた「富士見おひさんぼ」の事業を感染症対策を講じながら、富士見町と共催で実施した。 ・利用者数に関して、夏季の第8波の影響で青少年団体や一般団体の利用のキャンセルが生じたことにより、計画に対しては未達であったが、12月以降はWithコロナに向けた市の行政運営方針に基づき、必要に応じた感染症対策は講じつつも通常運営に戻したことにより、前年度対比8,000人強の増となった。また、町と連携して、小・中学校及び宿泊団体のゴンドラ・リフト利用について、特別料金での利用ができるよう調整するなど、川崎市民を対象とした集客に努めた。				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	4	8
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組がなされているか			
(評価の理由) ・金銭管理・会計手続については、法人の規則等に従い、財務ソフト専用のパソコンによって適切に処理している。また、市の物品実地検査の結果を踏まえて備品台帳を作成し、購入後は随時市への報告を行うなど、適切な備品管理も行った。 ・効率的・効果的な支出については、物価高騰に伴う光熱費の高騰に対応するため、利用者がいない時期には職員の厚着を推奨するなど、電気利用を節約する試みを実施し、エネルギー使用量を前年度に比べ縮減した。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	3	3
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	3	6
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	5	10
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
(評価の理由) ・施設・事業の広報については、施設ホームページやフェイスブック、インスタグラムの更新頻度を概ね週に1回以上と増やし、施設の出来事や活動に関する写真や動画の定期的な配信を実施した。また、かわさき市民祭りで施設の利用について直接周知を行った。 ・利用者への対応については、接遇マニュアル・苦情対応マニュアルを定め、利用者に対する接遇・配慮を適切に行った。また、自然教室で発熱した児童の送迎に柔軟に対応するなど、利用者が必要とするサービスの提供を行った。 ・学校及び行政機関との連携について、自然教室の受入れにあたっては、事前にプログラム調整会議を実施し、各団体の意向をヒアリングした上で、団体同士の活動スケジュールの調整を円滑に行い、安心して施設を利用していただくことができた。 ・利用者ニーズについては、利用者アンケートのほか、センターハウスと星の棟に意見箱を設置し、引き続き把握に務めた。また、 <u>建物内で迷う、行きたい場所が分かりづらいとの要望を踏まえ、各棟の床に新たに案内表示を設置し、各棟の利用者が移動しやすくなるようニーズを踏まえた施設設備の改善・工夫を行った。</u>					
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	3	6
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	3	3
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	4	4
	(評価の理由) ・適正な人員配置について、概ね計画的に職員の採用・配置を行った。 ・職員の研修体制について、救急・避難講習会、車両系建設機械運転技能研修、富士見町主催の接遇研修、危険物安全実務研修など、施設の性質を踏まえた研修を実施し、職員の実践的な知識の向上と衛生管理体制の強化に取り組んだ。 ・個人情報の取扱いについて、情報漏洩等のトラブルはなかった。さらに、個人情報保護規程を遵守しているほか、 <u>全職員を対象に個人情報保護についての研修会を実施した。</u>				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	4	4
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
	(評価の理由) ・施設・設備の保守管理については、光熱費の高騰による支出増への対応や修繕素材の調達しやすさを考慮しつつ、利用者に直接影響する部分の修繕を優先して実施した。具体的には、山棟のサッシ・照明器具・畳の更新、市からの要望に基づくセンターハウス屋根や第一浴室の壁等の改修を実施した。 ・利用者の安全確保については、付帯施設も含めた活動エリアの点検と報告を適切に実施した。野外炊飯やキャンプファイヤー等、火を取り扱う活動においては、注意マニュアルの事前配布、調理場への掲示、職員の確認などの注意喚起を継続し、事故の防止に努めた。また、強風により落枝等の危険が生じた樹木について、市への報告の上、速やかに剪定・伐採を実施するなど、安全確保に向けた対策を適切に実施した。 ・防犯対策については、計画通り実施した。 ・災害への対応については、消防計画に基づき避難訓練を実施した。さらに敷地内に長野県が指定する土砂災害警戒区域等を含むことを念頭に、避難・誘導の対応策を整理し、 <u>危急時マニュアルに加え、土砂災害警戒区域等における避難計画を作成した。</u>				

注) 配点×(評価段階/5)=評価点

4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

八ヶ岳の豊かな自然を生かして、事故なく小中学校の自然教室の受入れ等を行った。児童に発熱が出た場合には、近隣病院への搬送や保護者の駅から施設までの送迎など、昼夜時間問わず対応したり、敷地内に長野県が指定する土砂災害警戒区域等を含むことを念頭に、避難・誘導の対応策を整理し、危急時マニュアルに加え、土砂災害警戒区域等における避難計画を作成したりするなど、安心安全な施設運営に務めた。また、利用者アンケートや意見箱による意見の収集に引き続き務め、建物内で迷うといった要望に対して、各棟の床に新たに案内表示を設置し、各棟の利用者が移動しやすくなるようニーズを踏まえた施設設備の改善・工夫を行い、利便性の向上にも務めた。これらの取組の推進により、野外体験施設として質を高められているものと評価できる。 さらに物価高騰によるエネルギー単価の高騰に対応するため、利用者がいない時期に職員の厚着を推奨するなど、電気利用を節約する試みを職員の理解を得ながら実施し、結果的にエネルギー使用量を前年度に比べ縮減する一方で、施設・設備の保守管理において、優先度が非常に高いセンターハウス屋根や第一浴室の壁等の改修について、市からの要望に基づき、リスク分担を超える額の改修について柔軟に対応し、効率的・効果的な支出を行った。
--

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

当施設は豊かな自然の中にあり、小中学生にとって、宿泊を伴う自然体験をすることができる貴重な施設である。平成27年度に発生した事故の教訓を風化させることなく、また、土砂災害など様々な自然災害に対する危機管理を適切に講じることで、利用者にとって安全・安心に楽しめる施設となるよう、法人全体で引き続き学校との調整・連携・情報共有に努め、施設の適切な管理運営に取り組むこと。また、自然の家を青少年の教育の場としてさらに機能させるよう、アフターコロナにおける一般団体や青少年団体の利用促進に取り組むこと。
